富岡甘楽地方議会議員連絡協議会

被害甚大の東松島市(宮城県)を視察
110年分の瓦礫は97%リサイクル処理

長岡敬一 副議長

東日本大震災の惨禍から2年8か月が過ぎた去る11月11日、富岡市と甘楽郡の市町村議員は市街地の65%が津波に襲われ、1100人を超える犠牲者が出た宮城県東松島市を訪れ、震災の被害状況と復興が進む様子を視察しました。

この震災による東松島市の復興予算は、4400億円の計画を策定し作業を進めている。この中で特に農業の復興が問題で「土地も機械も施設もすべて破壊された状態」の中で、将来計画が定まらない農家の苦悩が遅れの原因になっているという。

事実、かつて美田であったであろう田んぼは一面に草が生い茂っていました。

さらに、津波で破壊された瓦礫は100万トンを数え市の通常処理量では110年分の量だという。いま復興対策事業で市民参加の処理作業が進められており、瓦礫の97%をリサイクル資源用に分別処理しているとのこと。

視察団も寒風の吹く中での作業現場を視察しました。

訪れた日はくしくも震災発生の月命日にあたる11日、説明会場にあてられたのは震災の翌日から「国・宮城県・東松島市の合同対策本部」となっていた会議室でおこなわれました。

東松島市を襲った津波は市街地の65%をのみこみ、同市の犠牲者は死者・不明者合わせて1133人(内消防団員8名)を数え、罹災家屋は一部損壊を合わせて1万4564棟にのぼる甚大な被害をうけたという。

議会運営委員会・議会だより編集委員会合同

果樹と農産物加工所の視察
新潟県聖籠町を訪問

中里芳久 委員長

新潟県聖籠町の人口規模は1万4000人強を数え、この数年は他の市町村の人口減少に歯止めがかからない中で人口が増え続けている。財政的には地方交付税の交付を受けていない町。さらに観光農園は観光協会の重要な位置づけになっていて、初夏から秋にかけての重要な観光資源になっているなど活発に活動する聖籠町を11月14日に訪れました。

かつては農業中心の町でしたが、新潟東港の完成で工場が進出し、さらには新潟市のベットタウンとして近年都市化が進んだという。特に人口増加の要因としては、工場進出、サッカー選手を養成する専門学校を誘致したことが大きいという。

果樹の生産も盛んでサクランボ、梨、ブドウが有名で、シーズンには大勢のお客さんでにぎわっているという。

その他大手スーパーと同居する直売所、ふれあい農園、農産物加工センターなどを案内していただいたが、機能が充実し町民から広く喜ばれているとのことでした。